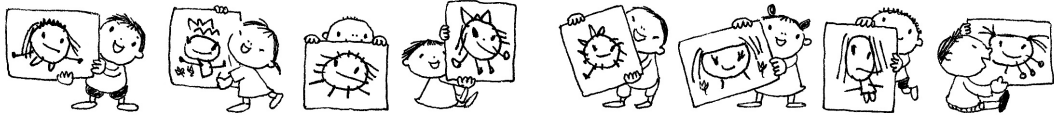


+1(プラスワン)



「備えあればうれし泣き」

牧師 横山順一

恥ずかしながら、トイレが間に合わず、阪急電車内で漏らしたことがある。今だから言える(笑)が、しばらくショックで立ち直れなかった。

それで高校の同窓会に欠席を続けたら、心配して電話をくれた同級生がいた。

思い切って欠席の事情を打ち明けると、彼女はカラカラ笑って、「そんなの、私らだって普通よ!」と言った。

一気に気が楽になると同時に、ああ、お漏らしが当たり前の年齢になったのだ、と奇妙な感慨にふけた。

二度とあんな体験は嫌だと、遠出したり、帰りが遅くなる時は、不測の事態に備えて、敢えて尿漏れパンツを履くようになった。

同等年齢以上の人たちで、漏らした染み痕をズボンに見ると、心から同情するし、大丈夫!と声をかけたくなる(大丈夫じゃないけどね)。

今や大人用(男女とも)のおむつがすっかり定着し、尿漏れパンツも色んなバリエーションで出ている。これなら粗相に対応できる。

と、安心していたら、最近「D Free」という画期的システムが出来たのを知った。

トリプル・ダブリュー・ジャパンという会社が開発した、排泄予知ウエラブルデバイスだ。

Dとは英語のダイアパー(おむつ)のことだ。おむつからの自由という訳で、名付けて「D Free」である。

この会社の若きCEO(三十三歳)である中西敦史さんが考案し、事業としたものだ。実は彼は、うんこを漏らしたことがあるのだ(名譽のために。本人がどこでも告白しているし、会社のHPにも紹介されている)。

中西さん、大学卒業後、海外青年協力隊などを経て、アメリカに留学した。

その折、下宿を引っ越し、運送屋を頼まず自力で荷物を運んだ。冷蔵庫の中身を処分するため、無理やり食材をぶち込んで、引っ越し前夜、辛い鍋を食べたという。

効果はきめん、えっちら重荷を抱えて移動中、にわかに腹を下したが、あいにくどこにもトイレがなかったそうだ。そして「悲劇」。

この悲しい経験が、あの時、せめても十分前にもよおすことが分かっていたら、という発想につながった。

石鹸のような装置をお腹の上に張り付けると、腸内を監視して排泄物の行く末を予知するハイテクメカを作った。

その情報が文字と音でスマホに届く。例えば、「あと十分です」などとトイレに向かう時間を予測して教えてくれるのだ。

超すげえ!ありがたや!

これがあったら、どんなに便利か!(現在二〜三万円です)。私には中西さんが救い主に思えたほどである(涙)。

今少し小型化し、値段を下げてあちこちに普及したら、本当にDフリーですよ。

地震の予知はなお難しいが、分かったら備えられる。分かったとしても備えられないのは心かもしれない。これはイエスの言葉に聞くしかあるまいね。